



ハクモクレンの芽

毎日痛いほどの冷たさの中、ピオトープの近くで見つけた。花びらの幅が広く、厚みがある。花は上向きに閉じたような形で咲く。3月初旬から開花。春はもうそこまで来ている。

2月の生活目標

- 自分のよいところをなぎさ祭で表現しよう
- 友だちと協力してなぎさ祭の準備をしよう

鏡開き

1月新しい年の始まりに、なぎさ公園小学校の玄関先には、2升のもち米で作った御鏡モチが飾られていました。

「今年1年がなぎさ公園小学校の児童・保護者・教職員にとって幸せ多い年になりますように。」との願いを込めてみんなの登校を待っているようでした。

もち米を大切に育てた3年生は、「鏡開き」でモチを割り、七輪で炭火をおこし、網の上で焼いて食べます。

真空パックに入ったお餅をオーブントースターで焼いても、変わらない？いえいえそんなことはありません。子どもたちは、いとおしむように、ゆっくりと箸でひっくり返しながらおもちが焼き上がるまで、友だちと楽しい話で盛り上がります。

ほんのり暖かい炭火のぬくもり、もちが焼ける香ばしい香り、五感を使って心から堪能します。醤油につけて熱々をいただくおいしさは、また格別です。半年以上かけた米作りの体験があればこそその味なのです。自然の恵みに感謝。



アクティブラーニング

これまで学校では、教師を中心として知識・技能の習得のため「受動」的な学び方が多くみられました。

今後は、「思考力・判断力・表現力等」や「主体的に学習に取り組む態度」がより一層求められます。子ども同士が学び合う「能動」的な授業に大きく転換していかなければなりません。

先日の国語科公開授業では6年生が、自分たちで決めた課題について、見通しをもち、計画的に進めながら、課題解決に挑みました。

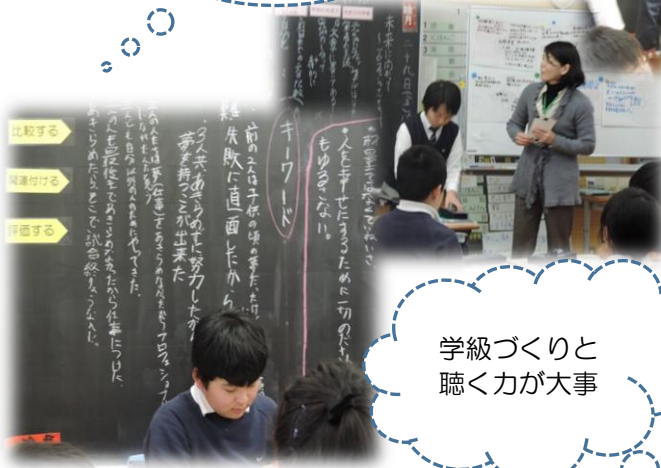
「プロフェッショナル」という教材を通して、3人の人物の生き方から学び、単元のゴールは、

「卒業文集」に役立てるというもの。自力解決で「情報を取り出し」、より深めるため班の友だちの意見を自分のそれと「比較し」そして、最後は、自分の考えを持つ展開を児童の進行とまとめにより進めることができました。

授業のまとめには教師の意味づけが的確に行われ、児童は、振り返りで、主体的に協働的に学び合うことが自分の学びの深まりにつながる事が分りました。記録・計時・報告などの役割を果たしながら、板書にまとめ、わかりやすく整理して考えのヒントになるよう工夫していきます。

このような学び合いの授業ができるようになるためには、発達段階に応じた細やかな指導と何より人の意見に耳を傾け大切に受け止める心情が大切です。

6年「プロフェッショナル」  
東京書籍



学級づくりと  
聴く力が大事

